



## 2 プライマリケア医療の潮流

患者に最も近い場所で、  
専門性を生かし責任を果たす  
シークレストクリニカルモール クリニック池田  
院長 池田 富聖

2012  
**49**  
Vol.11 No.3

### 特集

#### 地域で専門を生かす

- 4 “神経内科専門医ならではの”  
リハビリで地域医療に貢献  
堀田内科医院(静岡県静岡市)  
副院長 堀田 宗文 氏
- 6 気づきを促し、誉めて励まし  
患者の治療意欲を引き出す  
稲田内科クリニック(福岡県久留米市)  
院長 稲田 千鶴子 氏
- 8 確かな腕と迅速な検査  
小回りの利くケアを提供  
井上病院(広島県福山市)  
院長 井上文之 氏
- 10 スタッフの働く意欲を高め  
質の高い整形外科診療を実現  
特定医療法人慶友会(群馬県館林市)  
理事長 佐野 幸 氏
- 12 **内視鏡による低侵襲手術で  
ADL向上を目指す**  
医療法人薫風会 佐野病院(兵庫県神戸市)  
理事長・院長 佐野 幸 氏

#### CLINIC探訪

- 14 幅広い勉強の積み重ねと  
「聴く」を大事にした診療で  
信頼されるホームドクターに  
医療法人真心会 みさきクリニック(大阪府泉南郡岬町)
- 16 高い専門性と  
患者目線のサービスを  
兼ね備えた一次医療が目標  
医療法人社団葵会 一番町南診療所(宮城県仙台市)

#### レセプトを見直そう! 2012年度診療報酬改定

- 18 医療・介護提供体制の  
改革シナリオにおける  
診療所の改定点と算定のポイント  
豊橋創造大学短期大学部 教授 長谷川 正志

#### は・あ・と・ふ・る接遇 24 雨宮 恵美

- 22 患者満足度の向上と  
トラブル・クレーム防止法◆9  
～院内薬局での接遇対応と環境整備～

#### プライマリケアの医療チームから一言

- 24 在宅医療に取り組み30年  
「治す、良くする」が我々の仕事  
その軸を貫き通す  
医療法人徳政堂 佐渡医院 院長 佐渡 豊 氏

本誌は、武田薬品ホームページ医療関係者向け情報「医療連携」に掲載されています。



武田薬品工業株式会社

〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号  
http://www.takeda.co.jp/

# 内視鏡による低侵襲手術でADL向上を目指す

日進月歩の医療の世界で常に最先端の成果にキャッチアップし、それを患者に還元するのは至難のワザだ。あえてその困難な道を選び、神戸で最も歴史のある病院を、内視鏡外科手術に専門特化した病院として甦らせたのが佐野寧氏だ。体に優しい手術を行う病院として地域住民にも知られ、関西圏はもとより全国的知名度も急速に上がってきた。民間中小病院の新たな道を指し示すパイオニアでもある。



理事長・院長  
佐野 寧(さの やすし)氏

1991年、関西医科大学を卒業後、92年、兵庫県立姫路循環器病センター、94年、秋田赤十字病院へ。96年、獨協医科大学第2病理学講座研究員、99年、国立がん研究センター東病院消化器内科内視鏡部医長。内視鏡用の画像強調技術NBIをオリンパス(株)と共同開発。2003年、厚生労働科学研究班班長。06年、佐野病院消化器センター長を経て、07年から現職。

## Clinic's Profile

開業：1888年

診療科：内科、消化器内科、腫瘍内科、内視鏡内科、糖尿病内科、人工透析内科、疼痛緩和内科、消化器外科、腫瘍外科、内視鏡外科、肛門外科、整形外科、リハビリテーション科、婦人科、放射線診断科、人工透析、人間ドック

概要：160床、外来患者数207人(1日平均)、入院在院日数13.1日(平均)

職員数：医師14人、看護師78人、看護助手19人、薬剤師5人、調剤助手2人、管理栄養士2人、放射線技師3人、事務13人

立地：JR山陽本線垂水駅から徒歩10分

URL：http://www.sano-hospital.or.jp/

### 内視鏡外科手術に特化した専門病院

神戸市垂水区の佐野病院(写真1)はここ数年、胃がんや大腸がん、子宮筋腫などの内視鏡外科手術に取り組み、優れた実績を着実に積み重ねてきた。2011年の胃がんなどの上部消化管の腹腔鏡手術は76件、大腸がんなどの下部消化管の腹腔鏡手術は99件、子宮筋腫の子宮鏡手術は175件、子宮筋腫の腹腔鏡手術は87件にのぼる(図1)。

「件数だけでなく、手術のクオリティの高さも認められ、患者さんの口コミをはじめ、他施設からの紹介

も年を追うごとに増えてきました」と、院長の佐野寧氏は語る。

特に際立つのは、高度な手技を要する下部直腸がんに対する腹腔鏡下手術と、人工肛門を回避するための肛門温存手術など、専門性の高い手術を手掛けていることだ。

「小さな民間病院(160床)ですが、胃がんや大腸がん、子宮筋腫の分野では、常に最先端の医療を提供できる専門病院として地域のお役に立ちたいと考えています」(佐野氏)

### 時流に抗して、先端医療を担う急性期病院へ変貌

1888(明治21)年にオープンした

佐野病院は、神戸で最も古い歴史を誇る病院でもある。開設者は幕末期の神戸海軍操練所の生みの親で江戸幕府海軍奉行・勝海舟の主治医を務めた佐野馨氏。佐野氏の曾祖父だ。

佐野氏がNBI(狭帯域光観察)内視鏡システムの開発に従事していた国立がん研究センター東病院から、内科と産科を中心に地域医療を展開していた同院へ戻ったのは06年。それから6年、同病院は「維新」「革命」ともいえる大きな変貌を遂げ、新しい病院へと生まれ変わった。

「父(馨氏・医療法人薫風会会長)から当院を継ぐとき、規模は小さくても、がん研究センター東病院のように最先端のがん医療を担う病院へ一新させようと決意しました」

目標にしたのは大腸疾患に特化した英国セントマークス病院。優れた実績を有し、世界中の若手医師から留学先として選ばれている。当時は小泉政権以来の「聖域なき構造改革」で、急性期病院としての運営を再考する民間中小病院が多かったが、佐野氏は強い信念をもって、内視鏡外

## POINT

- ①小規模でも最先端医療を担う  
内科・産科中心の民間病院から、最先端のがん治療を担う病院に変貌
- ②内視鏡外科手術に特化  
消化器がん、子宮筋腫で高度低侵襲手術を得意とする医師をそろえる
- ③学術貢献で質をさらに向上  
サイエンティストとしての実績が、地域医療の充実にも役立つ



写真1 医療法人薫風会 佐野病院  
渡り廊下で、同法人介護老人保健施設メイン・レーベンとつながっている



消化器センター長  
小高 雅人(こたか まさひと)氏

1997年、高知医科大学(現・高知大学医学部)卒業後、高知県立病院(現・高知医療センター)へ。99年、くぼかわ病院、2001年、国立がん研究センター東病院消化器外科を経て、06年から佐野病院に勤務。



婦人科部長  
井上 滋夫(いのうえ しげお)氏

1983年、和歌山県立医科大学卒業後、社会保険神戸中央病院で研修。94年、京都府立医科大学で学位授与、明石市立市民病院婦人科部長、2004年、医誠会病院婦人科部長/子宮筋腫総合治療センター長。05年、佐野伊川谷病院婦人科部長/切らない筋腫治療センター主宰、10年から佐野病院に勤務。

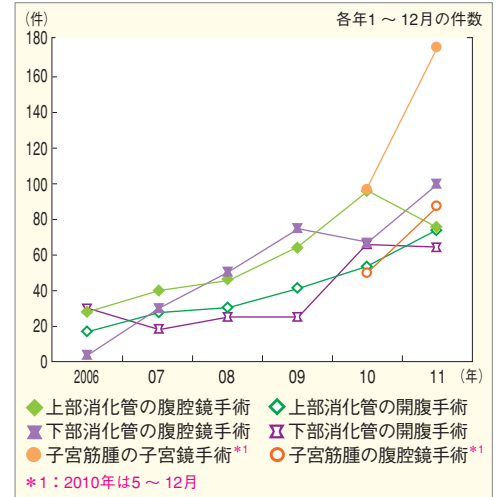


図1 手術・診療実績

科手術に特化する急性期病院を目指したという。

**患者に優しい腹腔鏡下手術と最先端の肛門温存手術**

胃や大腸など、消化器分野で同院が取り組む先端医療はいくつかあるが、先述の下部直腸がんに対する腹腔鏡下手術と肛門温存手術がその代表だ。

「大腸がんと言っても、骨盤の奥底の狭小箇所が生じる下部直腸がんの手術は、それ以外の直腸がんや結腸がんの手術と比べて極めて難易度が高い。開腹手術はもちろん、腹腔鏡下手術ではなおさらです。でも、当院では早期の下部直腸がんだけでなく、進行下部直腸がんに対しても患者さんの肉体的負担が軽い腹腔鏡下手術を選択するケースがあります」

こう語るのは、腹腔鏡下手術の担当で消化器センター長の小高雅人氏である。同院では2009年10月から単孔式腹腔鏡下手術(SILS)も導入しており、その執刀者も小高氏だ。また、肛門に最も近い下部直腸がんの場合、肛門を切除するか否かの二者択一を迫られるケースが多い。しかし、「肛門を切除せざるを得ない」と告げられても、腫瘍位置と状態、執刀医の技量によっては肛門を残

せるケースもあるという。

「がん研究センター東病院在籍時から、内肛門括約筋の一部と外肛門括約筋を残す肛門温存手術を数多く手掛けてきました。今は肛門縁から2～3cmのところの発生した下部直腸がんでも、肛門の温存が可能な場合があります」(小高氏)

下部直腸がんに対する肛門温存手術を手掛けるのは、全国でも少なく、同院の突出した専門性の1つである。

**状況に応じて子宮鏡、腹腔鏡を選択する子宮筋腫手術**

佐野病院で行う内視鏡外科手術のもう1つの分野は、子宮筋腫に対する手術である。

「子宮筋腫の非開腹手術に特化し、個別の状況に応じた術式を選択しています。子宮鏡、腹腔鏡のいずれも提供できることが当院の大きな特長です」と語るのは、佐野病院婦人科部長の井上滋夫氏だ。

井上氏が手掛けた子宮鏡下子宮筋腫摘出術の件数は日本でトップクラス。加えて、子宮筋腫の腹腔鏡下手術も兵庫県下でトップ3に入る実績を誇り、開腹手術を迫られるような筋腫も、内視鏡下に手術している。

子宮筋腫は子宮外妊娠や卵巣嚢腫よりも内視鏡手術が困難とされる

が、低侵襲手術を求める声は高まっている。井上氏は次のように語る。

「子宮鏡手術は腹腔鏡よりも、もっと低侵襲な手術で、お腹をまったく切らず筋腫だけを取り、翌日に退院できます。高額なディスプレイ機器も不要です。私は、適応とされてこなかった巨大粘膜下筋腫、筋層内筋腫の子宮鏡手術手技を学会で報告・紹介してきましたが、この手術の普及は患者さんだけでなく、広く医療経済に貢献できると思います」

これが、患者サイドに立った長年の筋腫治療実績から得られた、井上氏の結論である。

**学術面への貢献にも意欲 医療の質を高めたい**

「今後は、がん治療などの発展のための学術面においても貢献したい」と、佐野氏は語る。

「医師には病気の患者さんを治す臨床医としての側面と、新たな治療法を確立するなどのサイエンティストとしての側面があります。サイエンティストとしての実績を積み重ねることは、医師自身のモチベーションと医療の質を高め、ひいては地域医療の充実に役立つと思うのです」

佐野病院を支える2人の医師と佐野氏の挑戦は今日もつづく。